

第 19 回いぜな尚円王まつり歴史散策ツアー

尚円王の歩いた道～ゆかりの史跡を巡る～



「公事清明祭」

「尚円王生誕地屋敷内みほそ所」

伊是名村教育委員会

第 19 回いぜな尚円王まつり歴史散策ツアー

尚円王の歩いた道～ゆかりの史跡を巡る～

目 次

1. 文化財視察日程・・・・・・・・ 1
2. 視察コース図・・・・・・・・ 2
3. 文化財の概要・・・・・・・・ 3～9
4. 伊是名村の文化財・・・・・・・・ 10・11



伊是名村イメージキャラクター
尚円王

第 19 回いぜな尚円王まつり歴史散策ツアー

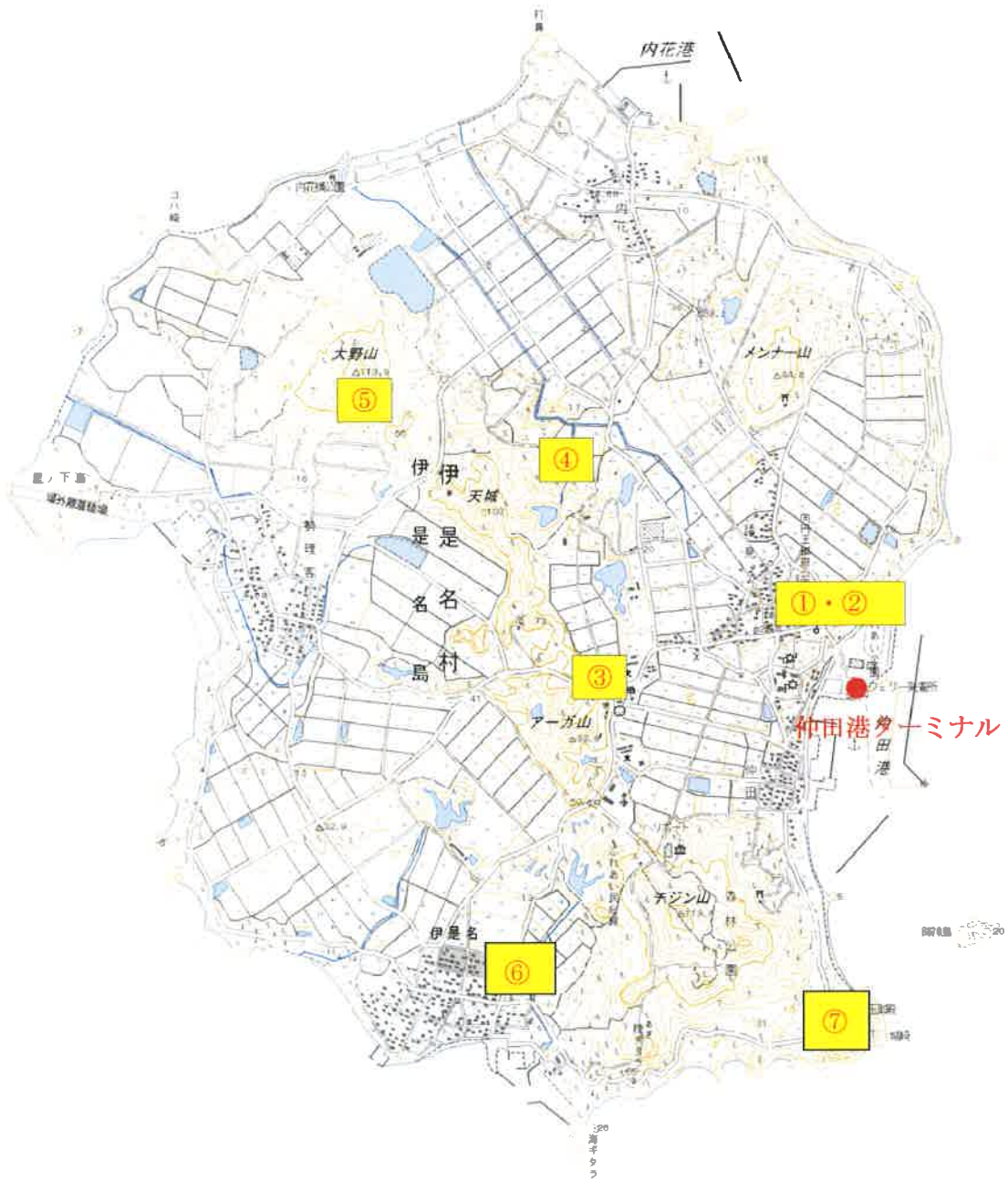
日時：8月18・19日 14:00～16:00（約2時間）

案内役：村教育委員会 学芸員 大城正泉（まさもと）

タイムスケジュール

- 14:00 伊是名村観光物産センター（仲田港ターミナル内） 出発
バス移動（5分）
- 14:05 ① 潮平井 ② 尚円王生誕地敷地内「みほそ所」 （20分）
バス移動（5分）
- 14:30 ③ 通水（尚円王通水節公園） （10分）
バス移動（10分）
- 14:50 ④ 逆田 ⑤ 大野山 （10分）
バス移動（10分）
- 15:10 ⑥ 銘苅家住宅（伊是名集落） （15分）
バス移動（10分）
- 15:35 ⑦ 玉御殿 （20分）
バス移動（5分）
- 16:00 伊是名村観光物産センター（仲田港ターミナル） 到着・解散

歴史散策ツアー コース図



村指定史跡・名勝 昭和 57 年 11 月 1 日

潮平井（すんじゃが一）

所在地：伊是名村字諸見 113 番地



尚円は諸見村の農家の家に生を受けた。童名：思徳金（うみとくかね）といい、彼の出産の際に産湯として使ったといわれるのが、潮平井の水であった。現在でも滾々と水が湧いている。

県指定史跡 昭和 52 年 6 月 27 日

尚円王生誕地敷地内「みほそ所」

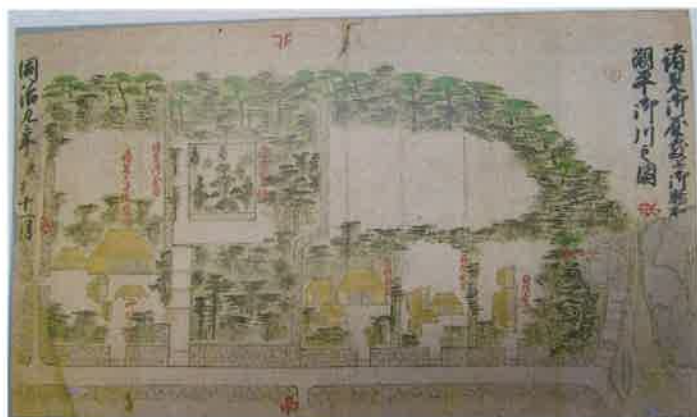
所在地：伊是名村字諸見 105-1

彼の臍の緒を埋めたと伝わる場所。

彼は、農家の息子として産まれたとされるため、当初彼が生活した住居はアナヤーと呼ばれる、半地下式の茅葺き住居であったと考えられる。

現在みられるような基壇（石材を利用して、周囲より一段高くした部分）は、中国から伝わった建築技法とされ、琉球においては権力者に関係する場所（首里城、勝連城、今帰仁城などの主郭（本丸））で確認される。

つまり、彼が権力者となったことで王としての権威付け、あるいは神格化する為の性格がみられる。また、基壇内には3つのチャート（方言名：ま一石）、3本の枇榔（方言名：クバ）、3本のフクギが配されており、風水的な思想と考えられる。



「諸見御屋敷并御臍所潮平御川之図」同治 9 年（1870）

村指定史跡 昭和 57 年 11 月 1 日

通水（通水節発祥の地）

所在地：伊是名村字仲田通水原



この場所は通水と呼ばれ、昭和 30 年頃まで谷底があり、その谷間をぬって山を上がる道があった。

北の松金（尚円）が諸見村で生活していた時は、この通水という場所は昼間でも薄暗い森であったと考えられる。伝承によれば、勢理客村に恋人がおり、この難所ともいえる通水を行き来して、愛を育んだとのこと。

この情景を唄うのが、島に伝わる「通水節」である。

尾持かかる毛に 我無蔵うちのせて

通水の山やよべど超えたる

歌意：「尾の毛がふさふさした栗毛の馬に、可愛い我が恋人を乗せて、難関の通水を越えることができた」

諸見から勢理客に行く時は、馬と鞍と金丸の 3 人であったが、帰りは恋人を乗せて 4 人となった喜びを詠った恋歌である。

現在は、ため池となっており古老の話では、水の底には金丸が通ったであろう道が沈んでいるとのこと。

逆 田

所在地：伊是名村字内花 4436



金丸が島で生活していた頃、農家として稲作に励んでいた。彼が保有していた田んぼには、1年中水があり、干ばつの時さえ涸れることがなかった。水が下から上に上る様であるとの様子から「逆田（さかた）」と呼ばれる。

逸話として伝わるのが、逆田の周囲で農作業を行う青年たちが、自分たちの田の水を盗んでいるとし、金丸に嫌疑をかけ、金丸を殺害しようと計画する話である。実際のところは、金丸が使用した逆田が、地理的に優れた場所にあり、水が湧くところであった。金丸自身が、学問的知識を有しており、それを理解していたかは不明である。

加えて、金丸は才能豊かで好青年であったため、女子に人気があったため青年に妬まれていたともいわれている。

青年らによる殺害計画を知った（一説には白髪の老人（神？）が啓示した）金丸は、妻と弟（後の第二尚氏第2代国王尚宣威）をつれ、国頭・宜名真へ渡ることとなった。⇒しかし、この逸話は第一尚氏開祖である尚巴志の祖父・佐銘川大主が伊是名を追われる話と酷似している点で、懐疑的な意見も多い。

大野山・タノカミ（下の御嶽）

所在地：伊是名村字勢理客



先に紹介した逆田での一件で、嫌疑をかけられた金丸は一時的に大野山に避難したとも伝わる。

また、大野山にはタノカミ（下の御嶽）と呼ばれる御嶽があり、1713年王府編纂の『琉球国由来記』にも「タノカミ御嶽イベ、神名ソノヒヤブ」とある。勢理客集落より北へ約500mの谷間になった大野山の麓に位置する。首里城歓会門近くに創建された『園比屋武御嶽・石門』は一説によると、伊是名島の当該御嶽のタノカミを勧請したといわれている。

奥には約二メートル四方の祠があり、中には香炉が計24個（大型一個、小型二十三個）確認される。昔は、神女の山グマイが行われ、山籠りをする聖地とされた。加えて、子宝に恵まれない婦人の祈願所でもある。



園比屋武御嶽石門（1980年復元時）

国指定重要文化財（建造物） 昭和 52 年 6 月 27 日

銘苧家住宅

所在地：伊是名村字伊是名 902 番地 管理：伊是名村



銘苧家住宅は、第二尚氏開祖である尚円の叔父・銘苧親方朝烈（真三良）を初代とし、代々、親雲上を称し夫地頭職を務めた家柄の屋敷である。

尚円（金丸）が島を出て天下人となったために、島に居住する姉・叔父・叔母の三名に特別の職が与えられることになった。姉の真世仁金には伊平屋の阿母加那志という神女職、叔父の真三良には銘苧大屋子という特別職、叔母の真世仁金には二かや田の阿母という神女職がそれぞれ与えられ、代々世襲されることとなった。しかし、叔母の真世仁金が死去したのち、その二人の娘が同時に二かや田の阿母職を継いだために、その職は「南風」（姉）と「北」（妹）の二つに分かれた。これにより特別な家、すなわち「四殿内（ゆとうぬち）」が存在することとなった。四殿内の地位は高く、経済的な保証もあり、また定期的に首里城に出向き国王に謁見することも許されていた。また、男系の世襲であったため、銘苧家は家譜を持つことが許され、系持（士族）としての地位が確立されていた。

※四殿内の他の3家は、女系出自のため家譜を持つことが許されなかった。

住宅については、門を入るとヒンプンが立ち、建物は赤瓦葺きで母屋の右手には客をもてなす部屋（アサギ）、左手には家畜小屋として使われた離れがあります。こうした造りは琉球士族の家の特徴を良く表している。現在の建物は明治39年に再建されたものですが、沖縄戦の戦火を免れたうえに保存状態も良かったため、国指定重要文化財に指定された。

国指定重要文化財（建造物） 平成 29 年 7 月 31 日

伊是名玉御殿（一棟）

所在地：伊是名村字伊是名 1 番地 管理：伊是名村



伊是名玉御殿は、伊是名城麓の切り立った岩山を背に立地している。正面の石段（一説には七五三の段数）を登ると、墓域を形成する石垣に至り、その中央には、石造のアーチ門が設けられる。

史料によれば、尚円の子である第二尚氏三代国王尚真（1477～1526）が創建した当初の伊是名玉御殿は勢理客の東於津田原（現在地不明）にあり、瓦葺建物（長一丈八尺、横一丈二尺）の中に、さらに板で蓋った建物（長一丈二尺、横九尺）を設け、その中に唐石厨子二基を安置していたとされる。その後、仲里（仲田）村の東長佐久原に移され（フルタマウドゥンと呼ばれる）、さらに現在の地に移されたとみられる。

1688年（康熙二十七年）にそれまでの瓦葺きと板葺きの建物が大破していたため（現在でも多量の瓦が散見される）、重修することとなり、このとき元島原に所在していた旧伊平屋の阿母加那志御殿の石垣を解体して供し、石造の建物にして二門を設けたとされる。東室は伊平屋の阿母加那志、西室は銘苺大屋子ならびに二かや田の阿母が用いることとなった。また前者の東室には2基の輝緑岩製石厨子が確認でき、東室正面に位置するのが尚円の父母の石厨子、右側に安置されるのが阿母加那志の石厨子とされる。

島の伝承では石厨子を乗せ、中国から帰国の途についた船が、伊是名島に寄港し、首里に向かおうと船を出そうとした際に、何度も南風が吹き荒れ進むことができず、石厨子を伊是名城に隣接するスダの浜へ陸揚げしたところ、北風が変わったとの話がある。また、急に北風になった事で、船の碇を回収できず、縄を切って出港したとの話もある。

墓前において毎年「公事清明祭」が執り行われ、銘苺家の漆器類をはじめとした拝領品を使用した、王家の清明を見聞することもできる。

県指定史跡 昭和 33 年 1 月 17 日

伊是名城跡

所在地：伊是名村字伊是名 1 番地 管理：伊是名村



伊是名城跡は、伊是名島の東方に位置し、海岸に突き出た標高約 98m の三角錐状のチャートからなる岩山の中腹に位置する。

築城年代・内容ともに判然としませんが、伝承によると伊平屋島の領主であった屋蔵大主が、子の佐銘川（鮫川）大主に伊是名城を築かせ、この地を治めさせたと伝えられる。

城の北面以外は急斜面で天然の要塞地となっており、城内はテラス状の平坦な面を有しています。また主としてチャートを使用した野面積みの石垣が数カ所で確認されている。

伝承によると、今帰仁城の軍勢が伊是名城を攻めた時の記録があり、水攻めにしようとしたが、場内の中腹に所在するイシカーと呼ばれる溜め池で兵が水を浴びさせたので、水攻めでは落ちないと考え、引き上げたと言われている。

また、城内には三つの御嶽がありそれぞれ、「大城のナー：諸見・仲田のナー」「勢理客のナー」「伊是名のナー」と呼称し、琉球国由来記にも記述が見られる。現在でも各集落の拝みの対象であり、特にウンジャミとシヌグの祭場として知られている。

伊是名村の文化財

◆歴史・文化財等

本村は、琉球王朝第二尚氏尚円王の生誕地としてひろく知られ、歴史、文化遺跡が数多く残されている。また、新たな文化の掘り起こしとして、尚円王に因んで現代版の組踊り「史劇・尚円王」の劇脚色を行う。

※国指定重要文化財の「銘苅家住宅」「伊是名玉御殿」をはじめとする県・村指定の有形・無形文化財は次の通りである。

◎国指定文化財（2件）

有形建造物

銘苅家住宅

有形建造物

伊是名玉御殿（一棟）

◎国登録有形文化財（1件）

有形建造物

旧名城家主屋及び石垣

◎県指定文化財・天然記念物（9件）

史跡

①尚円王生誕地屋敷跡「みほそ所」
②伊是名城跡

有形彫刻

伊是名玉御殿内石厨子（二基）

天然記念物

①伊是名城跡のイワヒバ
②アハラ御嶽のウバメガシ及びリュウキュウマツ等の植物群落

有形民俗文化財

①伊是名の神アサギ ②仲田の神アサギ
③諸見の神アサギ ④勢理客の神アサギ

◎村指定文化財（31件）

史跡

①伊是名貝塚 ②内花貝塚 ③勢理客貝塚 ④アギギ
タラ貝塚 ⑤仲田貝塚 ⑥ウフジカ貝塚 ⑦シーダチ
貝塚 ⑧親畑貝塚 ⑨元島遺跡 ⑩通水地 ⑪逆田

有形文化財・古文書

①葉壁山 ②竹割 ③言上写 ④言上写 ⑤山野開墾
に関する書類綴 ⑥伊平屋島旧記写

有形古文書・工芸品

銘苅家所蔵品

有形古文書・工芸品	①伊平屋の阿母加那志拝領品 ②北の二かや田（伊禮家）の拝領品 ③南の二かや田（玉城家）の拝領品
有形文化財・彫刻	① 土帝君（トートク）3体（諸見区） ② // 3体（勢理客区）
無形民俗文化財	字勢理客のティルクグチ
有形民俗文化財	貝志川島遺跡の貝輪着装人骨
天然記念物・植物	イゼナガヤ
史跡・名勝	① 美織所 ②サムレー道 ③アーガ山の逢火台（火立所） ④潮平井（スンザガー）
史跡	伊瀬名湊